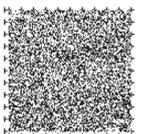
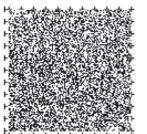


福島県総合計画

2022▶2030

概要版



知事あいさつ

新しい福島県総合計画では、県民の皆さんとの対話を通じて、本県が自然災害や新型コロナウイルス感染症などの困難を乗り越え、震災・原発事故からの復興・再生、人口減少対策などの取組を着実に進めた先にある2030年をイメージし、

「やさしさ、すこやかさ、おいしさあふれる ふくしまを共に創り、つなぐ」

を基本目標として掲げました。これは、世代を超えて持続可能な福島の将来の実現に向けて、県民の皆さんと共有したい思いを形にしたものです。

計画策定は県政の新たなスタートです。

県民や国内外の皆さんが復興を実感し、将来に夢や希望を持つことができるよう、挑戦を進化させ、一つ一つ着実に実現させていくことが重要です。

今を生きる私たちの世代、そして将来の世代、未来の子どもたちが、「福島に生まれて、育って、働いて良かった」と思える福島、お一人お一人が豊かさや幸せを実感できるような未来を創るために、県民の皆さんや本県に思いを寄せてくださる全ての皆さんと共に挑戦を続けてまいります。



福島県知事 内堀雅雄

第1章 総合計画の基本的事項

計画の特徴

- 総合計画は、県のあらゆる政策分野を網羅し、県づくりの指針や施策を示す県の最上位計画です。
- 国の「第2期復興・創生期間」以降における東日本大震災からの復興の基本方針(令和3(2021)年3月9日閣議決定)において、原子力災害被災地域については「当面10年間、復興のステージが進むにつれて生じる新たな課題や多様なニーズにきめ細かく対応しつつ、本格的な復興・再生に向けた取組を行う」とされたところであり、本方針と一体的に推進できるよう、計画期間は、令和4(2022)年度から令和12(2030)年度までの9年間とします。
- ふくしまの30年先の未来について、県民の皆さんや福島に思いを寄せる方それぞれが思い描きつつ、10年程度先のふくしまの将来の姿(未来予想図)をオールふくしまで創り上げます。
- 未曾有の複合災害からの復興、急激な人口減少への対応という前例のない課題を克服しようとする本県の取組は、SDGs(※)が目指す「誰一人取り残さない多様性と包摂性のある持続可能な社会の実現」とその方向性が一致していることから、SDGsの理念を踏まえながら、各種施策を推進していきます。
- 本計画の策定に当たっては、県民の皆さんの総合計画への関心を高め、将来の地域づくりや県づくりを自分事として捉える機運を醸成することが大切であると考えました。そこで、計画策定の過程において、子どもから大人まで幅広い年代にわたる多くの県民との対話を進めました。
また、地方振興局単位の地域懇談会における多様な立場の県民の方々との意見交換に加え、小学生から大学生までのワークショップ(意見交換会)や高校生などを対象とした約3万人のアンケート等を実施しました。



(※)SDGs:Sustainable Development Goalsの略称(エスディー・ジーズ)

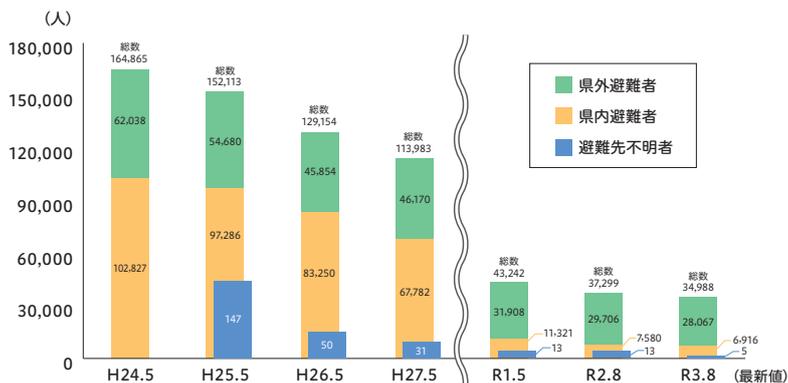
世界が抱える課題を解決し、誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会の実現のため、平成27(2015)年の国連サミットで決定した国際社会の共通目標。17の目標と169のターゲットが示されています。



▶ 復興・再生の現状と課題

- 避難地域の復興・再生
- 風評払拭・風化防止対策の強化
- 新産業の創出・地域産業の再生
- 廃炉に向けた取組
- 避難者等の生活再建
- 福島イノベーション・コースト構想の推進
- 復興を支えるインフラ等の環境整備

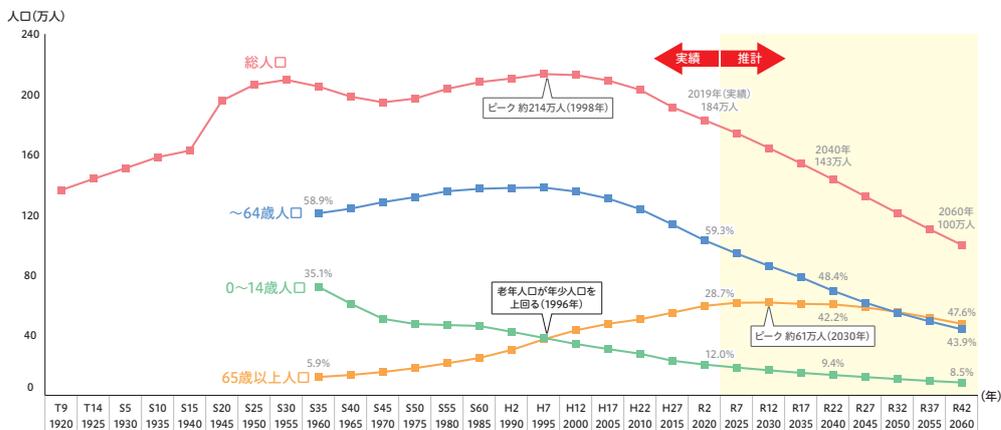
◆ 避難者数の推移 出典:福島県災害対策本部 「平成23年東北地方太平洋沖地震による被害状況情報」各月報



▶ 地方創生の現状と課題

- 人口減少が地域社会に与える影響(就業者・所得の減少、地域コミュニティの衰退、社会保障費の増加等)
- 「福島県人口ビジョン」に基づく自然増・社会増を目指す

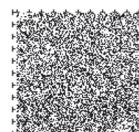
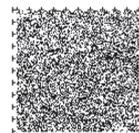
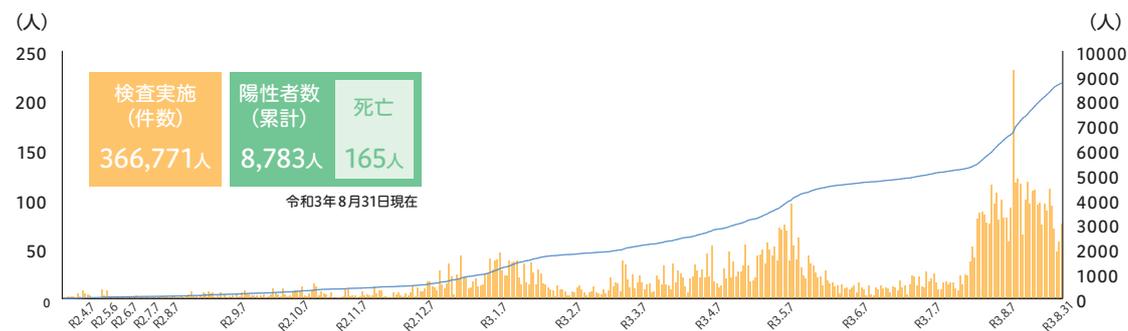
◆ 福島県の人口推移 (実績値=10/1時点) 出典:総務省「国勢調査」を元に令和2(2020)年以降福島県による推計



▶ 横断的に対応すべき課題

- 頻発化・激甚化する自然災害への対応
- 新型コロナウイルス感染症への対応
- 地球温暖化対策
- デジタル変革(DX)の推進

◆ 新型コロナウイルス感染症の新規陽性者数の推移等



福島県を取り巻く現状と課題

- ①復興・再生の現状と課題 ②地方創生の現状と課題
③横断的に対応すべき課題
(自然災害、新型コロナウイルス感染症、地球温暖化対策 など)

県民の皆さんの意見

本計画の策定に当たっては、多くの県民の方々に参加していただき、問題意識の共有を図りました。福島県総合計画審議会での議論、市町村との意見交換、県内各地で開催したワークショップや地域懇談会等を通じ、県民の皆さんから「ふくしまの将来の姿」についてたくさんの意見を頂きました。

- ①総合計画審議会 ②地域懇談会 ③市町村との意見交換
④対話型ワークショップ(小中学生・高校生・大学生) ⑤アンケート など

県づくりの理念

- 多様性に寛容で差別のない共に助け合う地域社会(県)づくり
- 変化や危機にしなやかで強靱な地域社会(県)づくり
- 魅力を見だし育み伸ばす地域社会(県)づくり

基本目標

やさしさ、すこやかさ、おいしさあふれる
ふくしまを共に創り、つなぐ

【目標に向かうために揺らいではならない前提】

この基本目標の達成に向けた様々な取組を進める上で、原子力災害による長期にわたる廃炉作業や環境回復の取組、避難指示の解除や解除後の生活・生業の再生、生活インフラの再生、産業の再生、さらには風評の問題や関心の低下による風化の問題などが着実に解決されていくことが大前提です。この前提がひとたび揺らぐと、本計画が描く将来の姿が根底から崩れる可能性があることから、引き続き、国、東京電力の責任ある対応を求めつつ、国・県・市町村が一体となって復興を進め、かけがえのないふるさとを取り戻す必要があります。

県民の皆さんから頂いた「ふくしまの将来の姿」についての意見を
県づくりの理念に沿って見ると、大きく次の3つに集約できます。

「誰もが活躍できる」
「ひとりぼっちにしない」
「人とのつながり・支え合い」
などの

“ひとを大切に作る”

= **ひと**

「医療・福祉が充実」
「災害や犯罪が少ない」
「子どもが育てやすい」
「自然豊か」などの

“安心・快適に暮らせる”

= **暮らし**

「産業や観光が盛んである」
「雇用の受け皿がある」
「一次産業の活性化」
などの

“働きたい場所(仕事)がある”

= **しごと**

この「ひと」「暮らし」「しごと」の3つの側面は、相互に関連性があり、相乗効果がある場合もあれば、相反する関係にある場合もあります。

大事なのはバランス(調和)を取りながらこの3つを伸ばしていくことです。

これらを総じて、「みんなで創り上げるふくしまの将来の姿」を、次のとおり決めました。

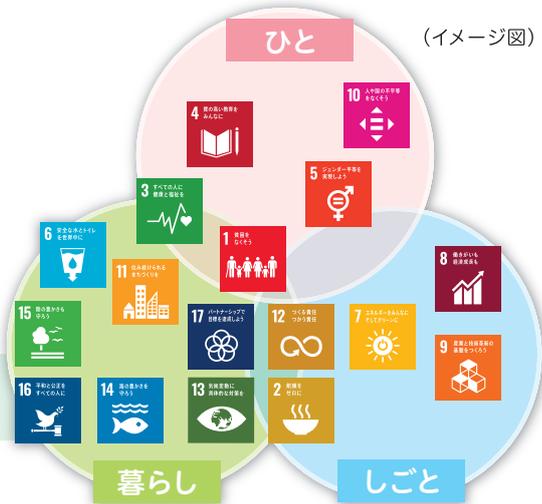
ひと **暮らし** **しごと** が
“調和しながらシンカ(深化、進化、新化)する豊かな社会”

引き続き、国内外の福島に心を
寄せる人々との連携・協働を深める

普遍的な課題に照らして
県づくりの方向性を示す

国内外共通で理解が得られる表現、SDGsという世界の
共通言語に照らして、本県の将来の姿を整理

他の地域よりも複雑な
課題を抱える本県の
目指すべき将来の
姿の実現につながる



(イメージ図)

ふくしまの将来の姿
(「ひと」「暮らし」「しごと」とSDGsの対応関係)

▶ SDGs視点の将来の姿



他の地域よりも複雑な課題を抱える福島県がどのような姿を目指すのか、福島に心を寄せる人々との連携・協働を深めながら、普遍的な課題に照らして県づくりの方向性を示すため、SDGsの17の目標ごとの視点で描きます。

10 人や国の不平等をなくそう



人や国の不平等をなくそう

- 年齢、性別、国籍、文化など様々な背景を持つ人々が互いに尊重し、自分らしく暮らしている など



5 ジェンダー平等を実現しよう



ジェンダー平等を実現しよう

- 地域や企業等が一体となり、多様な子育てを支援する体制が構築されている
- あらゆる分野で女性の意思決定過程への参画が進み、女性活躍の場が広がっている など

ひと

1 貧困をなくそう



貧困をなくそう

- 誰もが、医療、教育などの基礎的なサービスを受用できる環境が整っている など

4 質の高い教育をみんなに



質の高い教育をみんなに

- 知識や技能のみならず、自ら考え課題解決できる子どもたちが育っている
- 震災の記憶の継承や復興への取組を基に、郷土への理解が進んでいる
- 生涯にわたって学び続けることができる環境が整っている など

3 すべての人に健康と福祉を



すべての人に健康と福祉を

- 若い世代から高齢者まで県民一人一人が心身ともに健康な生活を送っている
- 安心して妊娠・出産に臨むことができる環境が整備されている
- 安心して必要な医療を受けられる体制が充実し、医療の質も向上している
- 高齢者や障がい者など利用者の意向を十分に尊重した良質かつ適切な介護・福祉サービスが充実している
- 各種感染症に迅速かつ的確に対応できる体制が整っている など

15 陸の豊かさも守ろう



陸の豊かさも守ろう

- 豊かな自然環境が保全されている
- 希少な動植物の保護など生物多様性が保全されている など

11 住み続けられるまちづくりを



住み続けられるまちづくりを

- 各種都市機能の中心市街地への集積など歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりが進んでいる
- 本県の魅力の発信や受入体制の整備により、本県への移住・定住の流れが確かなものとなっている
- 避難解除等区域における生活環境等の整備や居住人口の増加が進んでいる
- 過疎・中山間地域においても、医療や生活交通などの生活基盤が安定的に確保されている など

16 平和と公正をすべての人に



平和と公正をすべての人に

- 安全・安心で、差別や虐待のない人権に配慮した社会づくりが進んでいる など

暮らし



しごと

2 飢餓をゼロに



飢餓を
ゼロに

- 産地の生産力が向上し、生活に不可欠な食料を安定的に供給している

など

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



エネルギーを
みんなに
そしてクリーンに

- 再生可能エネルギー関連産業の育成・集積が進み、一大産業集積地となっている
- 水素エネルギーの社会実証が進み、国内外の最先端モデルとなっている

など

14 海の豊かさを守ろう



海の豊かさを
守ろう

- 水産資源を安定的に利用できる仕組みが確立され、活力ある水産業が営まれている

など

17 パートナースhipで目標を達成しよう



パートナ
シップで目標
を達成しよう

- 住民、企業、NPO法人や行政が連携し、住民主役のまちづくりが行われている
- 市町村とともに、効率的・効果的な行政サービスが行われている

など

8 働きがいも経済成長も



働きがいも
経済成長も

- 本県経済の中核を担う県内の中小企業などが主役となった力強い地域産業が成長・発展している
- 福島イノベーション・コースト構想の進展などにより地域外からの人材が還流・定着している
- 農林漁業者が他産業並の所得を安定的に確保している
- 県内観光地の魅力が高まり、インバウンドを含めた観光や教育旅行など地域を訪れる交流人口等が増加している
- 若者、女性、高齢者など誰もが安心して働ける雇用環境が整備されている

など

13 気候変動に具体的な対策を



気候変動に
具体的な
対策を

- 災害に強いライフラインやインフラの整備が進んでいる
- 防災に関する意識が高まり、自助・共助・公助による災害の備えが進んでいる
- 地球温暖化対策に県民一人一人が積極的に取り組んでいる

など

6 安全な水とトイレを世界中に



安全な水と
トイレを
世界中に

- 猪苗代湖を始めとする水環境が保全されている

など

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



産業と
技術革新の
基盤をつくろう

- 県産品・観光の魅力や正確な情報の発信により産地評価の回復、競争力の強化が進んでいる
- 福島イノベーション・コースト構想が進展し、地域企業の活力向上と新産業の集積・育成が進んでいる
- 利便性が高い道路ネットワークが確保されるとともに、条件不利地域でも携帯電話等が利用できる
- 福島空港、相馬港や小名浜港は、物流拠点・交流拠点として地域経済の活性化に寄与している

など

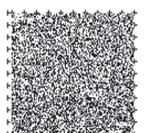
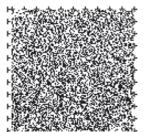
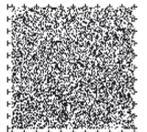
12 つくる責任 つかう責任



つくる責任
つかう責任

- GAP等認証の活用などにより、持続可能な農業生産が進み、県産農産物の信頼性が確保されている
- ごみの減量化やリサイクルなど環境に配慮したライフスタイルが定着している

など



本章では、将来の姿の実現に向け、県がその役割の下に取り組む主要な施策とその成果を表す指標について示します。本計画では、276項目の指標を設定しています。

「ひと」分野

		主な指標	
<p>1 全国に誇れる健康長寿県へ 若い世代から高齢者までライフステージに応じた疾病予防など4施策</p> <p>2 結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり 出会い・結婚、妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実など3施策</p> <p>3 「福島ならではの」教育の充実 「学びの変革」の推進と資質・能力の育成など6施策</p> <p>4 誰もがいきいきと暮らせる県づくり 多様な人々が共に生きる社会の形成など4施策</p> <p>5 福島への新しい人の流れづくり ふくしまとのつながりの強化、関係人口の拡大など2施策</p>	健康寿命		
	現況値 (H28)	目標値 (R12)	
	男性 71.54歳 女性 75.05歳	男性 ↑75.60歳 女性 ↑77.85歳	など
	合計特殊出生率		
	現況値 (R2)	目標値 (R12)	など
1.48	↑1.80		
地元自治体等と共に課題解決に向けた学習活動を実施した学校の割合(高等学校)			
現況値	目標値 (R12)	など	
—	↑100%		
日頃、人と人の支え合いや絆を実感していると回答した県民の割合(意識調査)			
現況値 (R3)	目標値 (R12)	など	
63.5%※速報値	↑84.0%以上		
人口の社会増減			
現況値 (R2)	目標値 (R12)	など	
△6,278人	↑0人		

「暮らし」分野

		主な指標	
<p>1 東日本大震災・原子力災害からの復興・再生 複合災害からの復興の加速化、避難地域の復興・再生など8施策</p> <p>2 災害に強く治安が確保されている安全・安心な県づくり 災害に強い県土の形成 など7施策</p> <p>3 安心の医療、介護・福祉提供体制の整備 質が高く切れ目のない医療提供体制の構築 など5施策</p> <p>4 環境と調和・共生する県づくり 豊かな自然や美しい景観の保護・保全 など4施策</p>	避難解除区域の居住人口		
	現況値 (R2)	目標値 (R12)	
	66,900人	↑増加を目指す	など
	土砂災害から保全される人家戸数		
現況値 (R2)	目標値 (R12)	など	
15,061戸	↑17,501戸		
医療施設従事医師数			
現況値 (H30)	目標値 (R12)	など	
3,819人	↑4,518人		
温室効果ガス排出量(2013年度比)			
現況値 (H30)	目標値 (R12)	など	
△19.2%	↓△50%		

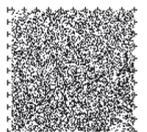
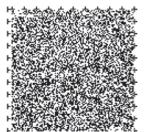
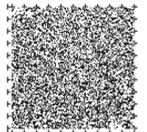
主な指標

<p>5 過疎・中山間地域の持続的な発展 過疎・中山間地域のひとの確保と地域力の育成 など3施策</p>	<p>過疎・中山間地域における観光入込数 現況値(R2) 15,068千人 目標値(R12) ↑23,200千人 など</p>
<p>6 ふれあいと親しみのある魅力あふれる県づくり にぎわいと魅力あるまちづくりの推進 など5施策</p>	<p>NPOやボランティアと県内自治体等との協働事業件数 現況値(R2) 471件 目標値(R12) ↑561件 など</p>

「しごと」分野

主な指標

<p>1 地域産業の持続的発展 地域の企業が主役となる、しなやかで力強い 地域産業の育成・支援 など3施策</p>	<p>製造品出荷額等 現況値(R元) 50,890億円 目標値(R12) ↑56,209億円 など</p>
<p>2 福島イノベーション・コースト構想の推進 福島イノベーション・コースト構想を基軸とした 産業集積・振興 など4施策</p>	<p>浜通り地域等の域内総生産(GDP)の伸び率(平成22年度対比) 現況値(H30) 12.3% 目標値(R12) 全国と同等以上 (推計25%程度) など</p>
<p>3 もうかる農林水産業の実現 農林水産業の多様な担い手の確保・育成 など5施策</p>	<p>農業産出額 現況値(R元) 2,086億円 目標値(R12) ↑2,400億円 など</p>
<p>4 再生可能エネルギー先駆けの地の実現 再生可能エネルギー等の更なる導入拡大と 利用促進 など3施策</p>	<p>再生可能エネルギー導入量 現況値(R2) 43.4% 目標値(R12) ↑70.0% など</p>
<p>5 魅力を最大限いかした観光・交流の促進 ふくしまの地域資源の磨き上げ及び 魅力発信による誘客の拡大 など4施策</p>	<p>観光客入込数 現況値(R2) 36,191千人 目標値(R12) ↑60,000千人 など</p>
<p>6 福島の産業を支える人材の確保・育成 県内経済を支える人材の確保・育成 など3施策</p>	<p>安定的な雇用者数(雇用保険の被保険者数) 現況値(R2) 580,442人 目標値(R12) ↑581,000人 など</p>
<p>7 地域を結ぶ社会基盤の整備促進 基盤となる道路ネットワークの整備 など3施策</p>	<p>七つの地域の主要都市間の平均所要時間 現況値(R2) 86分 目標値(R12) ↑82分 など</p>



地理的な条件や自然環境、歴史・文化などの特性をいかし、**県北、県中、県南、会津、南会津、相双、いわき**の7つの地域区分により地域づくりを推進していきます。

会津地域



鶴ヶ城／会津若松市

- 会津地域を支える担い手の育成・確保と魅力ある地域づくり
- 誰もが暮らしやすい会津地域の生活環境づくり
- 新たな時代を拓く会津地域ならではの産業づくり
- 後世に残すべき会津の宝を守りいかなす取組

県北地域



花見山／福島市

- 誰もが安心していきいきと暮らせる環境づくり
- 多彩な交流を通じた地域の活性化
- 地域経済を支える産業の振興、人材の育成・確保
- 災害に強く、持続可能な生活を支える基盤の整備

相双地域



相馬野馬追／相馬市・南相馬市

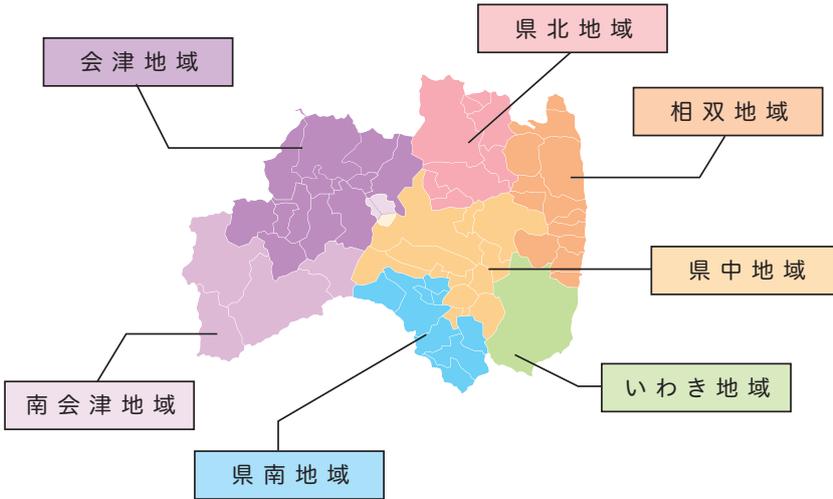
- 帰還促進と移住・定住の促進に向けた取組
- 持続可能な産業の再生と創出及び関連インフラの整備
- 地域の特性をいかした農林水産業と過疎・中山間地域の再生
- 時代の潮流を踏まえた生活基盤の構築

県中地域



郡山市引風の高原／郡山市

- 災害の克服、安全で安心して暮らせる地域社会の形成
- こおりやま広域圏の広域連携による多彩な地域資源を活用した交流人口拡大、関係人口の創出、移住・定住の推進
- 新たな未来を創り、地域経済をけん引する産業の創出・集積、高度産業人材等の育成・確保
- 地域に対する誇りと愛着を育む魅力あふれる地域づくりと生活基盤の充実、担い手の育成
- 経済・社会・環境のバランスが取れた持続可能な発展を成し遂げる地域社会の形成



南会津地域



尾瀬国立公園／檜枝岐村

- 地域の特性をいかした産業の振興
- 地域資源を活用した交流・関係人口の拡大と移住・定住の促進
- 社会生活基盤の維持・整備による安全・安心な暮らしの確保
- 豊かな自然環境や伝統文化など地域の宝の保全・継承

県南地域



南湖公園／白河市

- 地域の経済をけん引する活力ある産業の振興
- 地域づくりを支える担い手の育成や多様な人々を受け入れるための場づくり
- 地域の魅力をいかした交流の促進と広域連携による交流人口の拡大
- 人々が安全・安心に暮らし続けることができるまちづくり

いわき地域



アケアマリン／ふくしま／いわき市

- 技術と人材をいかした産業の振興
- 多様な地域資源を活用した地域間連携による関係・交流人口の拡大
- 持続可能な地域づくりに向けた幅広い世代と多様な人材、団体、企業等の活躍の場の創出
- 震災と復興の経験をいかした安全で安心して暮らせる生活基盤の充実

計画推進に当たっての考え方

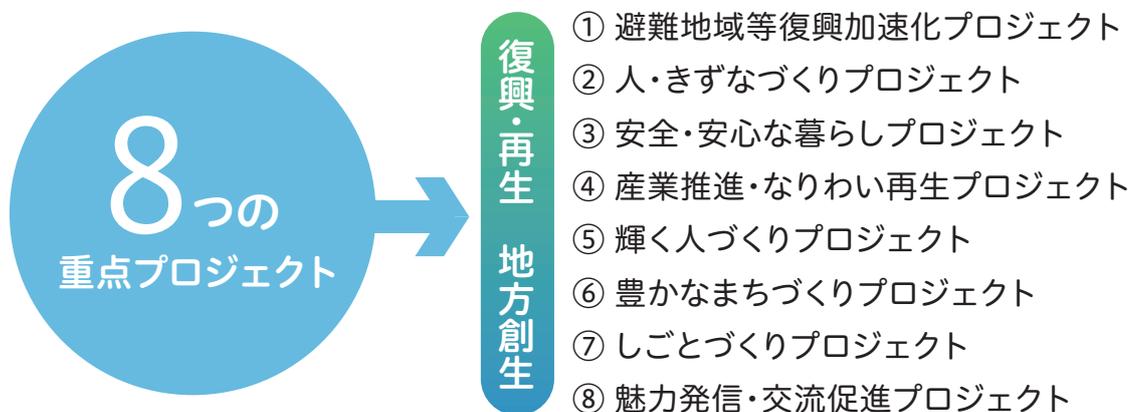
この計画は、県民の皆さんを始め、民間団体、企業、市町村、県など、本県で活動する様々な主体が、本県の目指す将来の姿を共有し、県づくりを進めるための指針となるものであり、その実現のためには、それぞれの役割の下、力を合わせて取り組んでいく必要があります。

それぞれの主体が、自ら考え、自ら行動し、地域づくりを行えるよう、県としても、あらゆる主体との連携・協働を積極的に進めるとともに、地域課題の解決のため、地域の実情を踏まえた施策を推進します。

本計画策定後も、将来の地域づくりや県づくりを自分事として捉える機運を醸成するため、出前講座や対話の機会を設けるなど、あらゆる機会を捉えて、県民の皆さんの総合計画への関心を高める取組を進めます。

※重点プロジェクト

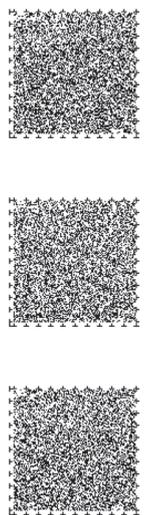
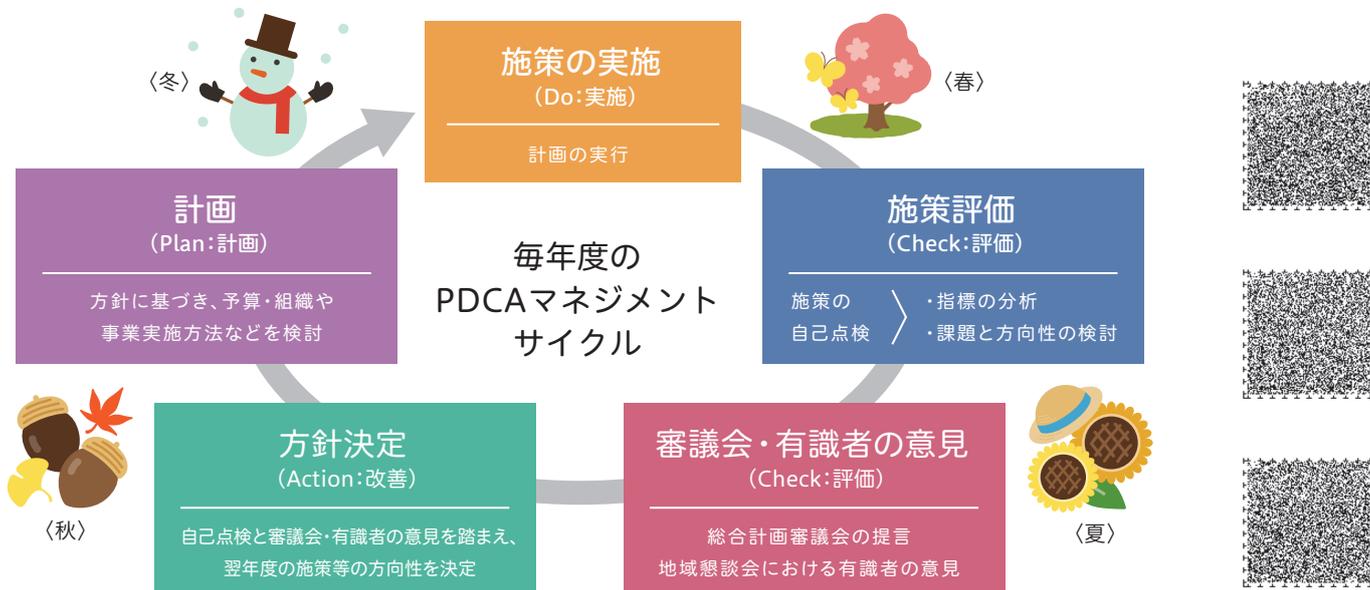
限られた行財政資源の中で、復興・再生と地方創生を推進するため、復興の進度の違いによって顕在化・複雑化する課題への具体的な対応など新たな復興のステージへの対応やふくしま創生総合戦略に基づく人口減少対策、特に重要な行政課題を8つの「重点プロジェクト」として展開し、重点的に取り組みます。



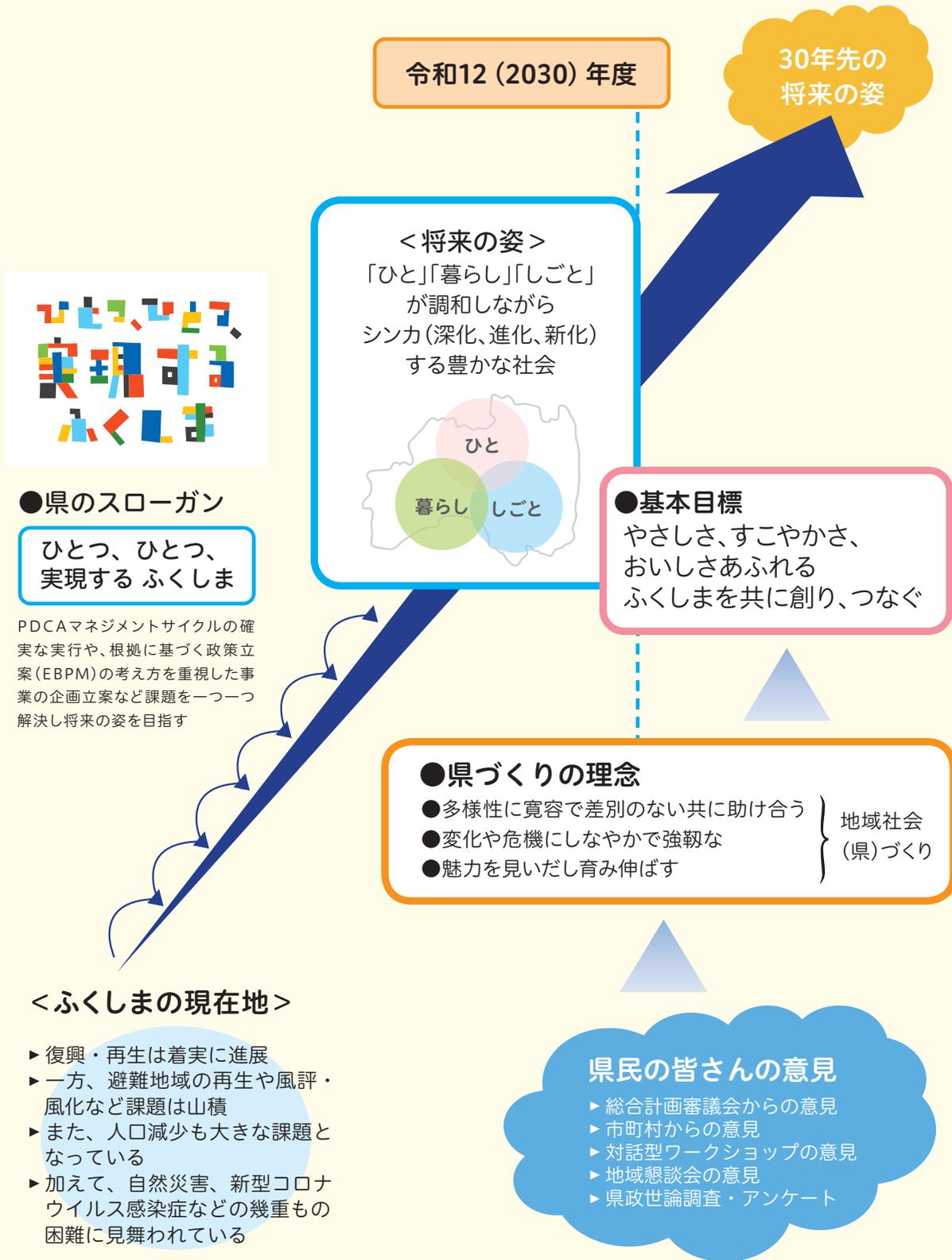
計画の進行管理

計画を着実に推進し、進行管理を行っていくために、PDCAマネジメントサイクルの確実な実行による事業効果の適切な評価を行い、具体的な成果の創出と成果の見える化を進めます。

その際、根拠に基づく政策立案(EBPM)の考え方を重視するとともに、指標の達成状況の分析や適時・適切な指標への更新なども含め、本県が保有する統計情報など様々なデータを積極的に活用しながら、実効性の高い事業の企画立案につなげます。



「県のスローガン」と総合計画(県づくりの理念、基本目標等)の関係性



お問い合わせ先

福島県企画調整部復興・総合計画課

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号 Tel 024-521-1111(代表)

URL <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11015b/> mail sougoukeikaku@pref.fukushima.lg.jp

詳しくは、ホームページをご覧ください。

福島県総合計画



福島県総合計画
特設ページはこちら



リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。